

第5期みやぎ観光戦略プランの実施状況・ 今後の目指すべき姿

みやぎ観光振興会議

1 第5期プランの概要・ プランに基づく取組状況

第5期みやぎ観光戦略プランの概要①

- 宮城県は「宮城の将来ビジョン」を策定し、「富県共創！活力とやすらぎの邦づくり」を基本理念として県政を推進する中で、観光の果たす役割が極めて重要であるという認識に立ち、平成18年12月に「みやぎ観光戦略プラン」を策定した。
- 現行の第5期プランについては、関係者の方々との意見交換や県の審議会での答申を踏まえ、令和4年9月に策定し、「ウィズコロナ・ポストコロナへの対応とともに、デジタル変革を進め、地域内外から選ばれる持続可能な観光地域づくり」を基本方針に掲げ、観光需要回復に向けた取組を推進してきた。

みやぎ観光戦略プランによる取組

第1期	第2期	第3期	第4期（改定版）	第5期
平成19年度から22年度	平成23年度から25年度	平成26年度から29年度	平成30年度から令和4年9月まで	令和4年10月から令和6年度
「地域が潤う、訪れてよしの観光王国みやぎの実現」を目指して	地域が潤う、住んでよし、訪れてよしの感動の「観光王国みやぎ」の実現を目指して	みやぎの観光の創造的復興とさらなる飛躍へ	観光の再生から未来につなぐ新たなステージへ	地域内外から選ばれる持続可能な観光地域づくりを目指して
3つの戦略プロジェクト	5つの戦略プロジェクト	5つの取組の方向性	5つの戦略プロジェクト	5つの戦略プロジェクト
1 みやぎの魅力創出プロジェクト 2 みやぎの情報発信・誘客プロジェクト 3 みやぎの連携・組織づくりプロジェクト	1 みやぎの魅力向上プロジェクト 2 広域観光充実・域内流動促進プロジェクト 3 インバウンド強化プロジェクト 4 関東以西からの誘客強化プロジェクト 5 アクティブ・シニア等の受入態勢充実プロジェクト	1 沿岸部の観光資源の再生と積極的な誘客 2 外国人観光客の回復 3 LCC就航や仙台空港民営化等を契機とした東北が一体となった広域観光の充実 4 観光消費効果の高い県外等からの誘客強化 5 観光資源の魅力の向上と観光客受入態勢の整備拡充	1 東北が一体となった広域観光の充実と誘客プロモーション 2 観光産業の連携強化と成長促進 3 外国人観光客の誘客加速化 4 沿岸部のにぎわい創出 5 感染症により落ち込んだ観光需要の回復と持続可能な観光地づくり	〔回復戦略〕 感染症により落ち込んだ観光需要の回復 〔成長戦略〕 1 魅力あふれる観光地づくり 2 観光産業の体制強化 3 受入環境の整備促進 4 戦略的な誘客プロモーション

平成二十三年三月 みやぎ観光創造県民条例の制定

第5期みやぎ観光戦略プランの概要②

計画の位置づけ

- ・「みやぎ観光創造県民条例」に定める観光振興に関する基本計画（行動計画）
- ・「新・宮城の将来ビジョン」の分野別計画

計画期間

令和4年10月から令和7年3月まで

みやぎの観光を巡る現状・課題と方向性

- ①新型コロナウイルス感染症により落ち込んだ観光需要の早期回復
- ②地域を支える基幹産業としての観光関連産業の生産性の向上
- ③持続可能な地域づくりに向けた県民の意識の醸成

計画の基本理念

ウィズコロナ・ポストコロナへの対応とともに、デジタル変革を進め、地域内外から選ばれる持続可能な観光地域づくり

数値目標（基本指標）

コロナ禍前（R元）の水準に回復する目標（回復目標）を基本としつつ、コロナ後を見据えた成長目標を設定

数値目標	実績値 (令和元年)	実績値 (令和2年)	実績値 (令和3年)	実績値 (令和4年)	目標値(令和6年)	
					回復目標	成長目標
宿泊観光客数	989万人泊	587万人泊	584万人泊	778万人泊	990万人泊	1,040万人泊
外国人観光客宿泊者数	53.4万人泊	12.2万人泊	3.6万人泊	6.0万人泊	50万人泊	70万人泊
観光消費額	3,989億円	2,498億円	2,624億円	3,117億円	3,990億円	4,200億円
観光客入込数	6,796万人	3,945万人	4,495万人	5,724万人	観光成果指標へ移行	

第5期みやぎ観光戦略プランの概要③

第5期みやぎ観光戦略プランに基づく5つの観光戦略プロジェクト

回復戦略

感染症により落ち込んだ観光需要の回復

- (1) 安全・安心の機運醸成と可視化による選ばれる観光地づくり
- (2) 回復フェーズに応じた取組推進と観光資源の魅力の再発見

成長戦略1

魅力あふれる観光地づくり

- (1) 特色ある地域資源の発掘・磨き上げと観光コンテンツの充実
- (2) 観光に対する地域住民や旅行者の意識醸成
- (3) 震災の経験を生かした復興ツーリズムや教育旅行の展開

成長戦略2

観光産業の体制強化

- (1) 地域経済循環力の強化
- (2) 地域を支える観光人財の育成・確保

成長戦略3

受入環境の整備促進

- (1) 旅行者の安全・安心確保
- (2) 多様化する旅行者の受入環境整備

成長戦略4

戦略的な誘客プロモーション

- (1) 旅行者のニーズやターゲットに応じた戦略的プロモーション
- (2) 東北各県や東北観光推進機構等と一体となった広域周遊観光の促進

令和5年度の実施状況①

■第5期みやぎ観光戦略プラン（以下「プラン」という。）の2年目である令和5年度は、東北のゲートウェイである仙台国際空港の国際線定期便の順次再開や、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行するなど、観光業を取り巻く状況が好転した。

■県としても、プランで定めた5つの戦略に基づき、延べ639事業を展開し、ポストコロナにおける観光需要の早期回復・持続可能な観光地域づくりに向けた取組を推進している。

回復戦略

感染症により落ち込んだ観光需要の回復

事業数（延べ） 計150事業（県事業：56事業、市町村事業：94事業）

【主な事業】

- ▼外国人観光客受入環境整備促進事業 [8,500千円]
- ▼外国人観光客誘致促進事業 [44,168千円]
- ▼宮城オルレ推進事業 [54,200千円]



宮城オルレ 村田コースオープン（R5.11.11）
【宮城オルレ推進事業】

成長戦略1

魅力あふれる観光地づくり

事業数（延べ） 計207事業（県事業：88事業、市町村事業：119事業）

【主な事業】

- ▼観光地域づくりチャレンジ事業 [21,000千円]
- ▼教育旅行誘致促進事業 [73,200千円]



地域資源を活用した商品造成
【観光地域づくりチャレンジ事業】

令和5年度の実施状況②

成長戦略2

観光産業の体制強化

事業数(延べ) 計103事業 (県事業: 42事業、市町村事業: 61事業)

【主な事業】

▼未来を担う観光人材プロジェクト [6,000千円]

▼フィルムコミッション推進事業 [2,044千円]



インバウンド対応研修
【未来を担う観光人材プロジェクト】

成長戦略3

受入環境の整備促進

事業数(延べ) 計70事業 (県事業: 24事業、市町村事業: 46事業)

【主な事業】

▼みやぎ観光戦略受入環境基盤整備事業 [213,341千円]

▼観光地周遊促進事業 [24,000千円]

▼宮城ワーケーション情報環境整備推進事業 [1,459千円]



AIカメラによるリアルタイム映像
観光地における混雑状況の可視化
【観光地周遊促進事業】

成長戦略4

戦略的な誘客プロモーション

事業数(延べ) 計109事業 (県事業: 57事業、市町村事業: 52事業)

【主な事業】

▼観光誘客推進事業 [84,648千円]

▼みやぎ観光デジタルプロモーション事業 [92,000千円]

▼東北観光推進機構等と連携した広域観光の取組強化 [18,500千円]



ラプラスカフェ第二弾の実施
【観光誘客推進事業】

2 宮城県の観光の現状

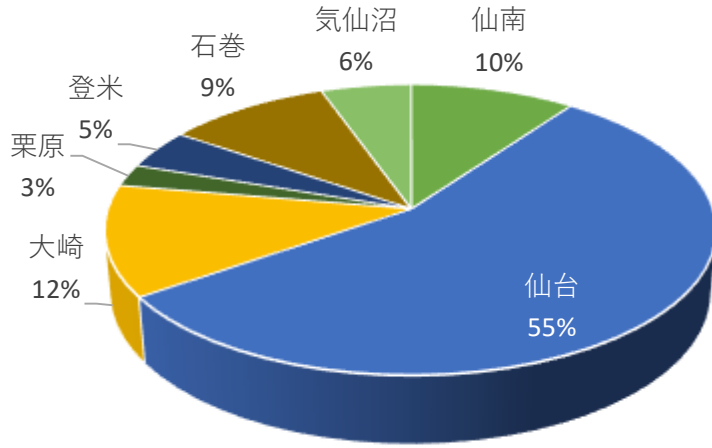
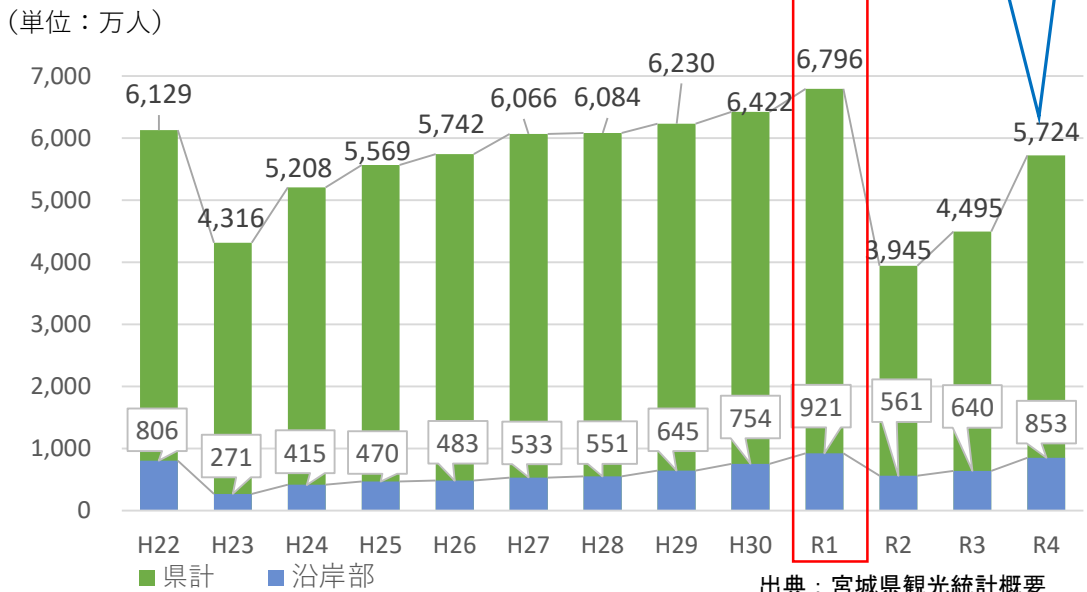
本県の観光の現状① ～宮城県の観光客入込数～

- 宮城県の観光客入込数は、東日本大震災で大きく減少し、震災前（平成22年）の約7割まで減少
⇒ 平成29年に震災前の水準を上回り、令和元年には過去最高値を更新
- 令和2年には新型コロナウイルス感染症の影響により3,945万人と前年（令和元年）に比べ2,851万人の減少（▲42%）となった。
⇒ 令和4年（速報値）では、5,724万人と前年比+27.3%の増加、コロナ禍前の令和元年の84.2%まで回復

宮城県の観光客入込数の推移

コロナ禍前の約8割まで回復

令和4年 圏域別観光客入込数内訳（速報値）



出典：宮城県観光統計概要
※ R4 は速報値

本県の観光の現状② ～宮城県の宿泊観光客数～

■ 宮城県の宿泊観光客数は、東日本大震災後も復興需要を背景に増加傾向にあり、令和元年は震災前（平成22年）と比較し、約2割（+22.9%）の伸びとなった。

■ 令和2年は観光客入込数同様、新型コロナウイルス感染症の影響により、587万人泊と前年（令和元年）に比べ402万人泊の減少（▲40.7%）となった。

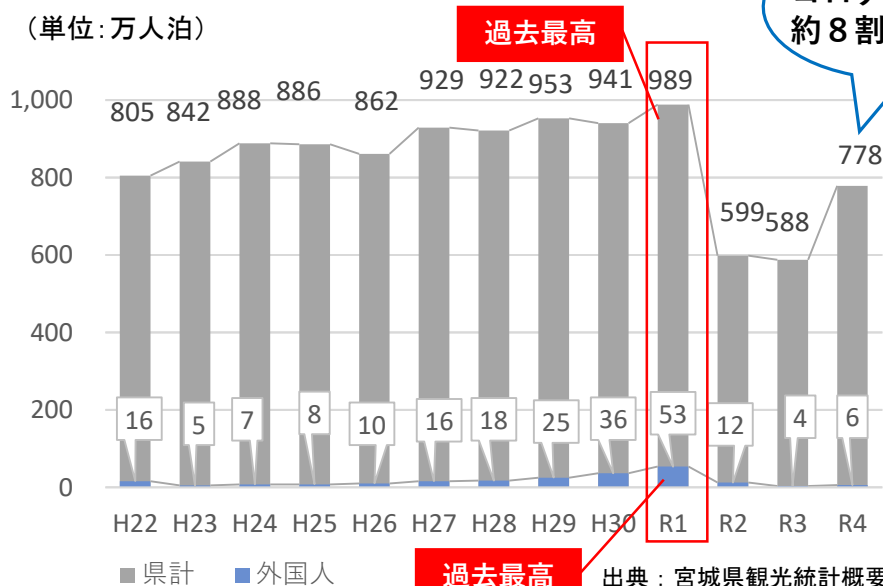
⇒令和4年（速報値）は、778万人泊と前年比+33.2%の増加、コロナ禍前の令和元年の78.7%まで回復

【参考】観光庁宿泊旅行統計調査（2023年8月・第2次速報）

⇒宮城県全体の延べ宿泊者数は、1,050,980人泊（R元比：▲7.8%）となり、コロナ禍前と同水準まで回復
一方、全国平均（R元比：▲3.5%）と比較すると回復が鈍く、更なる誘客促進に向けた取組が必要

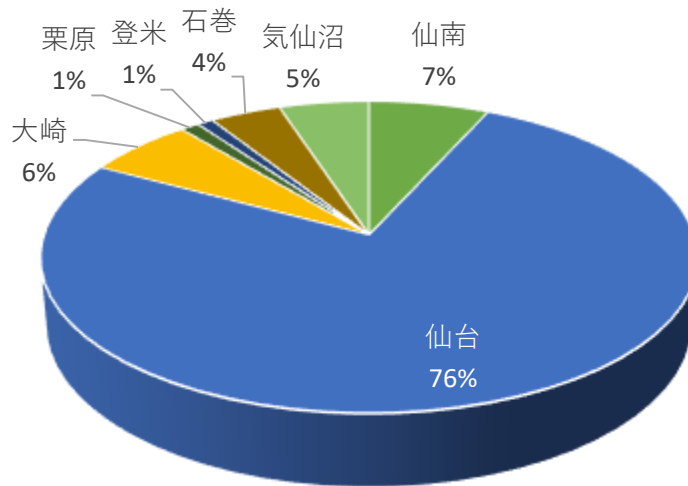
宮城県の宿泊観光客数の推移

（単位：万人泊）



コロナ禍前の約8割まで回復

令和4年 圏域別宿泊観光客数内訳（速報値）



過去最高

出典：宮城県観光統計概要
※R4は速報値

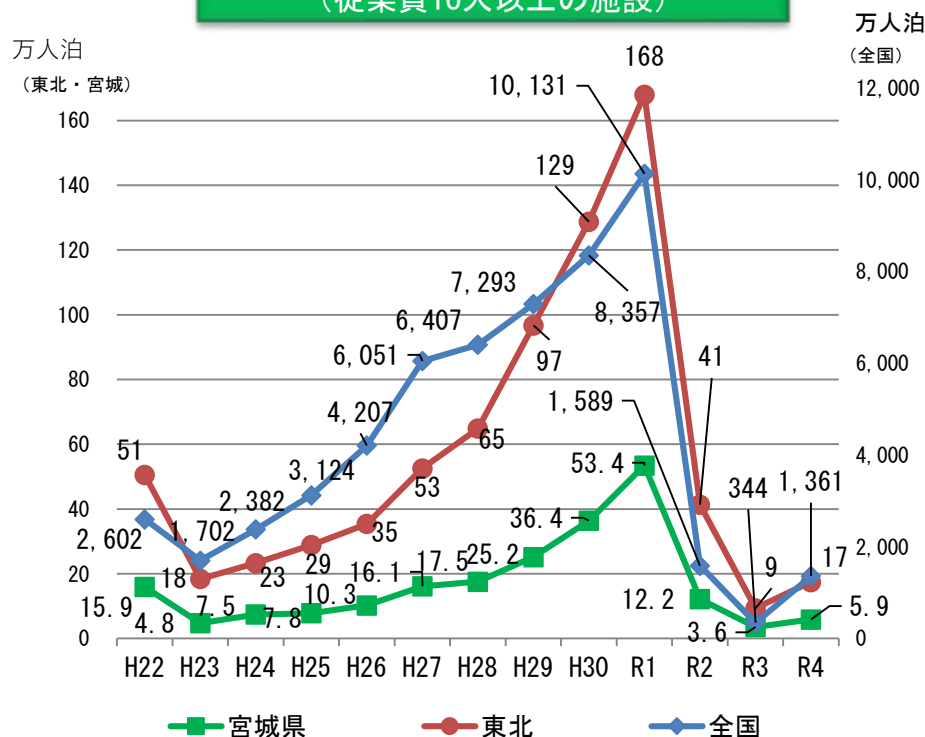
本県の観光の現状③ ～東北地方の外国人宿泊者数～

■ 東北地方の令和元年の外国人宿泊者数（ビジネス目的含む。）は、約168万人泊（震災前比約3.3倍）と近年大きく伸びており、これに対して宮城県も約53万人泊（震災前比約3.4倍）と伸びた。

■ 令和2年においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、東北地方は約41万人泊、宮城県は約12万人泊と大幅に減少した。

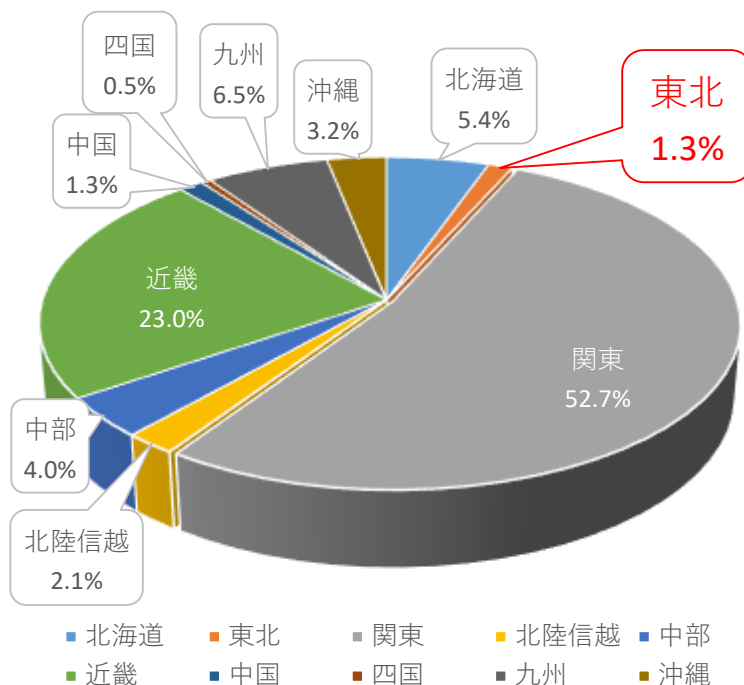
⇒水際対策が段階的に緩和された令和4年ではあったが、入国者数の上限撤廃や個人旅行客の入国解禁が10月中旬になったことから、東北地方で17万人泊（コロナ禍前R元比：10.1%）、宮城で5.9万人泊（コロナ禍前R元比：11.0%）とコロナ禍の影響が残った。

全国・東北・宮城の外国人宿泊者数の推移
(従業員10人以上の施設)



出典：観光庁 宿泊旅行統計調査

令和4年 地区別外国人宿泊者数の割合

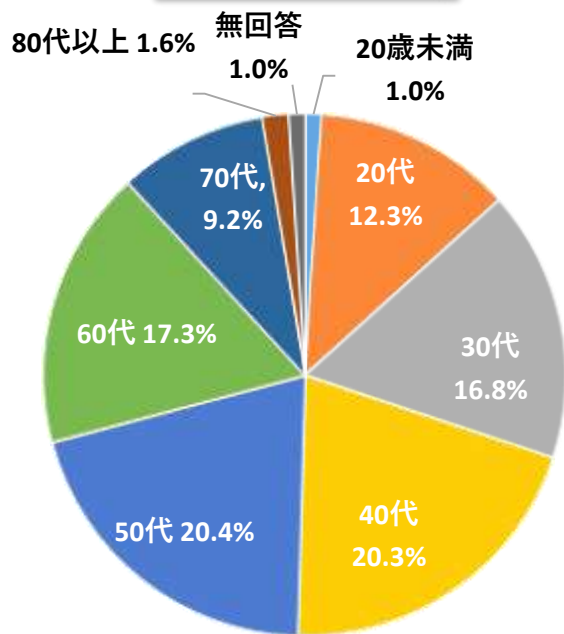


出典：観光庁 宿泊旅行統計調査 10

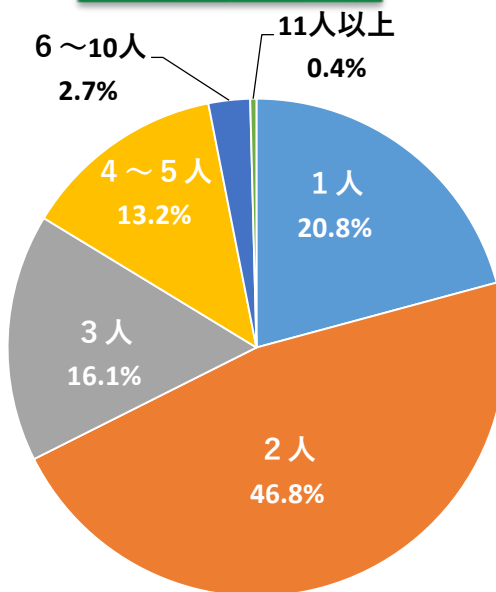
本県の観光の現状④ ～観光客の動向 年代・同行者（R4年）～

- 年代は、**50代が最も多く**、次いで40代、60代、30代の順になっている。
- 同行人数は、2人が4割超、1人が2割超と、**少人数旅行の割合が高い**。
- 同行人数2人以上の場合の同行者の種類は、**家族・親族が約8割**で、職場や学校の**団体旅行の割合が低い**。

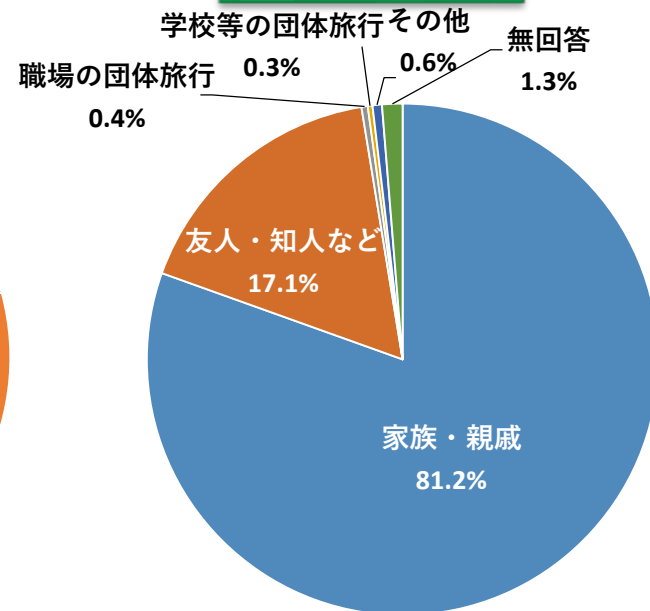
観光客の年代



同行者の人数



同行者の種類

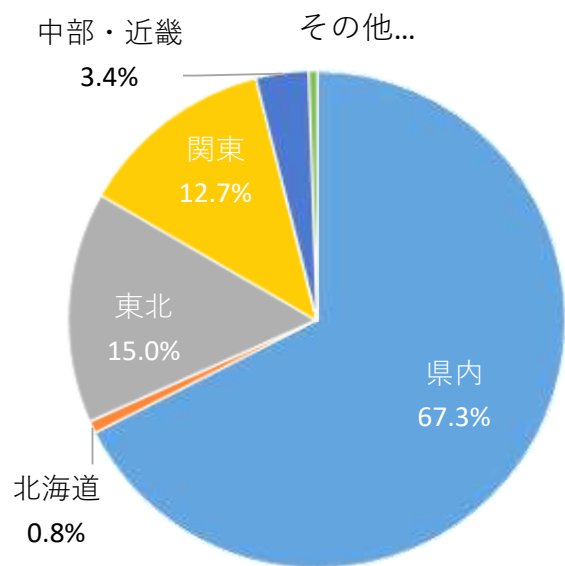


出典：宮城県パラメータ調査

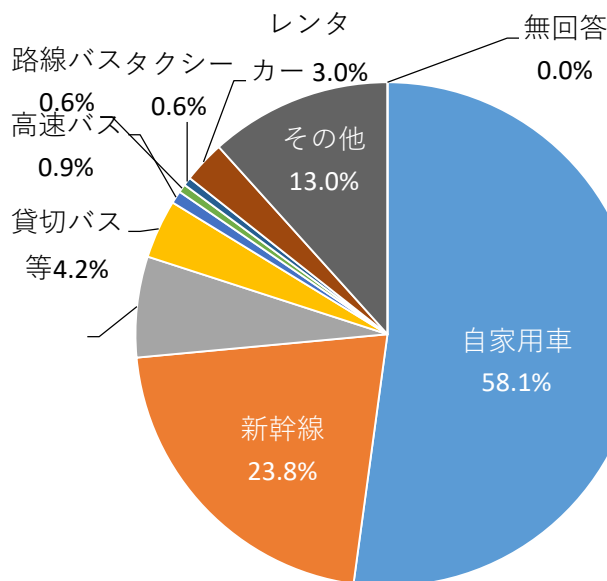
本県の観光の現状⑤ ～居住地別・交通手段・旅行目的（R4年）～

- 宿泊観光客を居住地別に見ると、**県内と東北**の割合が高く、合わせて**8割**を超える。
- 主な交通手段は、**自家用車**が最も多く約**6割**を占め、次いで新幹線と鉄道が多い。
- 旅行目的は、**観光**が**6割**を超え、**買い物**が約**2割**となっている。

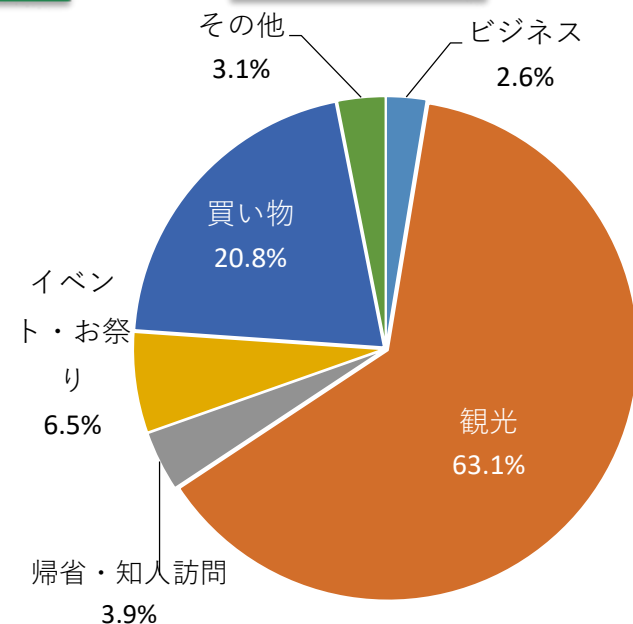
居住地別宿泊観光客数



主な交通手段（複数回答）



旅行の目的



出典：宮城県パラメータ調査

本県経済の現状① ～日銀短観～

【日本銀行仙台支店】全国企業短期経済観測調査結果

【東北短観】

短観(全国企業短期経済観測調査)は、日本銀行が行う統計調査であり、**経済物価情勢を把握**するための指標の一つ。
 D.I.(企業の景況感の判断を指数化したもの)は、各判断項目について3個の選択肢((1)良い、(2)さほど良くない、(3)悪い)を用意し、選択肢毎の回答社数を単純集計し、全回答社数に対する「回答社数構成百分比」を算出した後、次式により算出。
 $D.I. = (\text{第1選択肢の回答社数構成百分比}) - (\text{第3選択肢の回答社数構成百分比})$

単位：％（ポイント）

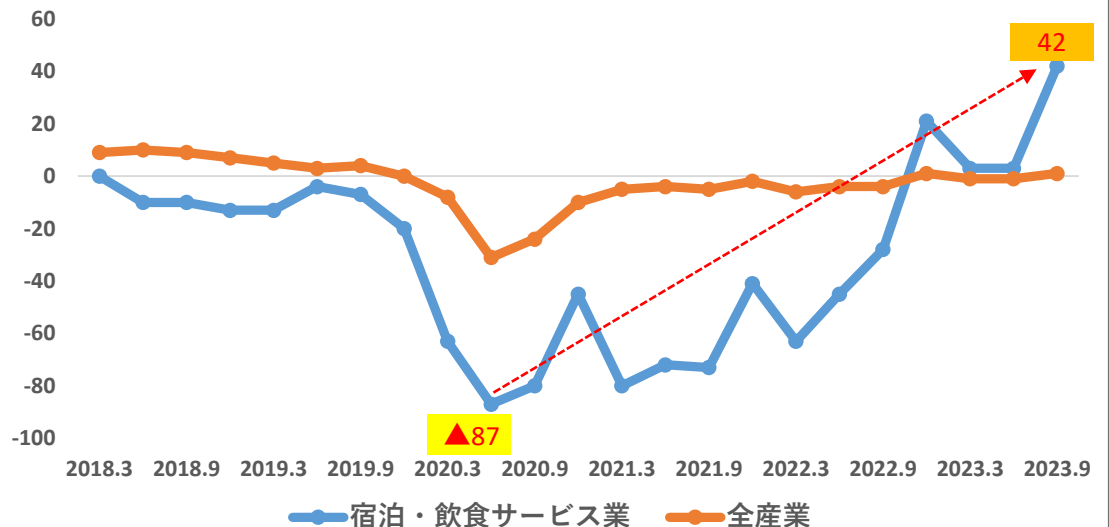
	2018.3	2018.6	2018.9	2018.12	2019.3	2019.6	2019.9	2019.12	2020.3	2020.6	2020.9	2020.12	2021.3	2021.6	2021.9	2021.12	2022.3
宿泊・飲食サービス業	0	▲10	▲10	▲13	▲13	▲4	▲7	▲20	▲63	▲87	▲80	▲45	▲80	▲72	▲73	▲41	▲63
全産業	9	10	9	7	5	3	4	0	▲8	▲31	▲24	▲10	▲5	▲4	▲5	▲2	▲6

出典：日本銀行仙台支店 全国企業短期経済観測調査結果（東北地区6県）

業況判断指数の推移【宿泊・飲食サービス業】

- 新型コロナウイルス感染症が国内で初めて確認された2020年1月16日以降は、業況判断指数が大幅に下落した。
- 2020年6月には▲87ポイントとなり、2022年12月にプラスに転じるまで、景況判断は「悪い」が優勢であった。
- 2023年に入り、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行するなど、行動制限の大幅な緩和等が後押しとなり、直近の2023年9月には、42ポイントと大幅に改善した。

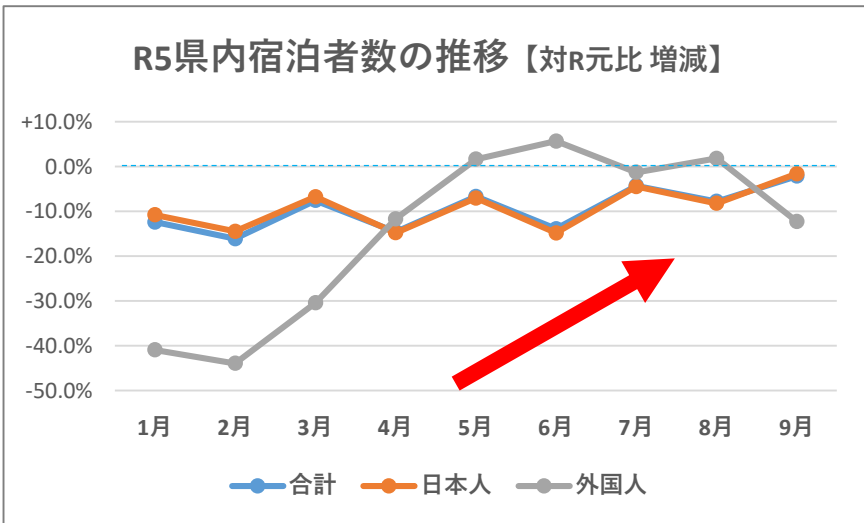
日銀短観の業況判断指数の推移



本県経済の現状② ～県内宿泊者数の推移～

【観光庁】宿泊旅行統計調査

- 2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行するなど、行動制限の大幅な緩和が後押しとなり、5月及び6月の外国人観光客が、コロナ禍前の令和元年を超えるなど、順調に回復している。
- 一方、国内観光客は令和元年を超えた月はないが、令和5年9月に令和元年比で98.4%まで回復した。



【宮城県ホテル旅館生活衛生同業組合】宿泊人員調査(対2019年比)

- 各地区ごとの回復状況（対2019年比）をみると、「仙台」、「松島・塩釜・多賀城」、「黒川・登米・栗原・大崎」の回復が著しい。
- 一方、仙台市内においても、「秋保」、「作並」は、令和元年を超えた月が、「秋保」の7月のみであり、中心部と温泉地では回復に差が生じている。

2019年比で100%以上

	秋保	仙台	松島・塩釜・多賀城	石巻・東松島・女川・気仙沼・南三陸	岩沼・名取・青根・遠刈田・小原・鎌先	作並	鳴子5地区	黒川・登米・栗原・大崎
1月	81%	100%	90%	79%	78%	82%	82%	63%
2月	82%	108%	97%	80%	88%	74%	79%	76%
3月	90%	127%	146%	114%	103%	73%	117%	107%
4月	85%	99%	108%	85%	94%	85%	98%	135%
5月	95%	95%	105%	90%	86%	81%	107%	96%
6月	83%	93%	98%	87%	93%	67%	84%	114%
7月	102%	95%	114%	96%	106%	94%	93%	113%
8月	96%	97%	99%	94%	90%	84%	96%	110%
9月	93%	100%	102%	94%	93%	89%	94%	102%
10月	97%	109%	103%	110%	101%	93%	92%	97%
11月	91%	95%	102%	98%	95%	79%	90%	122%

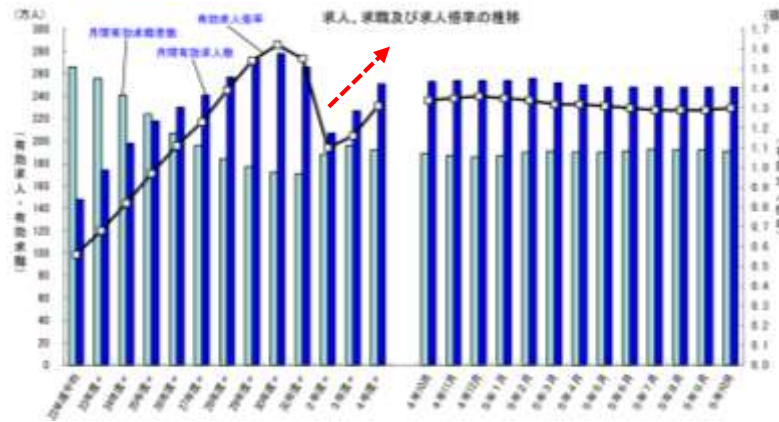
本県経済の現状③ ～雇用情勢～

【宮城労働局】有効求人倍率の動向

【有効求人倍率】

- 有効求人倍率は、有効求人数を有効求職者数で割った率(1人の求職者に対して、どれだけの求人があるのかを表す。)
- 労働市場の需給状況を表す代表的な指標**であり、景気の改善・悪化をみる判断材料としても活用
- ⇒好況時に有効求人倍率が上昇し、不況時には、有効求人倍率が下降する。

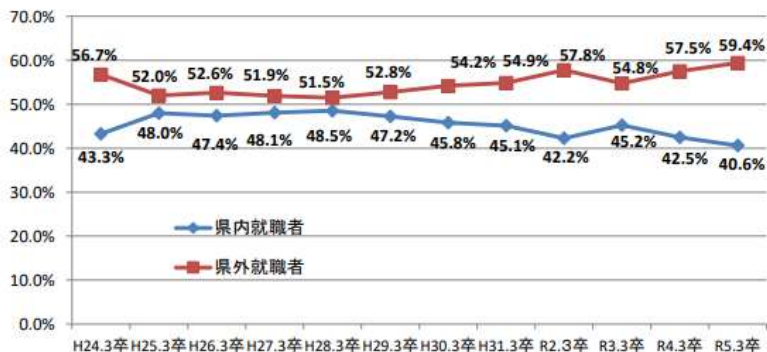
- 令和5年10月の有効求人倍率(季節調整値)は、**1.34倍**。
- 新型コロナ禍の令和2年1月に1.49倍(前月比▲0.08ポイント)と減少に転じ、その後**令和2年9月に1.03倍となり大幅に落ち込んだ**。
- 令和3年以降は徐々に改善し、令和4年8月以降は横ばいで推移。



出典：宮城労働局 宮城県の一般職業紹介状況(令和5年10月分)

【宮城労働局】大卒者等の県内・県外就職(内定)者数の推移

- 令和5年3月の大卒者等の就職者数は**16,697人**。
- 一方、就職者のうち、**県外就職率の割合は59.4%**となっており、半数を超える。

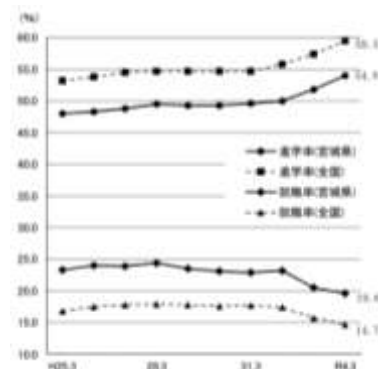


出典：宮城労働局 令和5年3月新規大卒者等の就職の状況(令和5年3月末現在)

【宮城県】宮城県の令和4年度学校基本調査結果(確報)

- 令和4年3月の高等学校の卒業生数(計18,434人)のうち、**就職者数は3,617人(約19.6%)**を占める。
- 就職者のうち、**県外就職率の割合は17.9%**となっており、また産業別にみると、**製造業が34.3%と最も多い**。

進学率・就職率の推移



産業別就職者割合



3 6期プラン策定に当たっての 今後の目指すべき方向性

今後の観光施策の方向性① ～観光立国推進基本計画（第4次）～

- 観光はコロナ禍を経ても**成長戦略の柱**、**地域活性化の切り札**。国際相互理解・国際平和にも重要な役割。
- コロナによる変化やコロナ前からの課題を踏まえ、我が国の観光を持続可能な形で復活させる。
- 大阪・関西万博も開催される**2025年**に向け、「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」をキーワードに、「持続可能な観光地域づくり」「インバウンド回復」「国内交流拡大」に戦略的に取り組み、全国津々浦々に観光の恩恵を行きわたらせる。

計画期間：
令和5年度～7年度
(2023～2025年度)

観光立国推進基本計画(第4次)

基本的な方針

持続可能な観光地域づくり戦略

- 観光振興が**地域社会・経済に好循環**を生む仕組みづくりを推進する
- 観光産業の**収益力・生産性を向上**させ、**従事者の待遇改善**にもつなげる
(「稼げる産業・稼げる地域」)
- **地域住民の理解**も得ながら、**地域の自然、文化の保全と観光を両立**させる
(「住んでよし、訪れてよし」)



インバウンド回復戦略

- 消費額5兆円の早期達成に向けて、施策を総動員する
- 消費額拡大・地方誘客促進を重視する
- アウトバウンド復活との相乗効果を目指す

国内交流拡大戦略

- 国内旅行の実施率向上、滞在長期化を目指す
- 旅行需要の平準化と関係人口の拡大につながる**新たな交流需要の開拓**を図る

目標

- 早期達成を目指す目標：インバウンド消費5兆円、国内旅行消費20兆円
- 2025年目標（質の向上を強調し、人数に依存しない指標を中心に設定）

持続可能な観光地域づくり	地域づくりの体制整備	① 持続可能な観光地域づくりに取り組む地域数【新】	100地域
	インバウンド回復	② 訪日外国人旅行消費額単価【新】	20万円/人
③ 訪日外国人旅行者一人当たり地方部宿泊数【新】		2泊	
④ 訪日外国人旅行者数		2019年水準超え	
国内交流拡大	⑤ 日本人の海外旅行者数	アジア最大・3割以上	
	⑥ 国際会議の開催件数割合	アジア最大・3割以上	
	⑦ 日本人の地方部延べ宿泊者数	3.2億人泊	
	⑧ 国内旅行消費額	22兆円	

主な施策

- 観光地・観光産業の再生・高付加価値化
- 観光DX、観光人材の育成・確保
- 持続可能な観光地域づくりのための体制整備等

- コンテンツ整備、受入環境整備
- 高付加価値なインバウンドの誘致
- アウトバウンド・国際相互交流の促進
- 国内需要喚起
- ワークーション、第2のふるさとづくり
- 国内旅行需要の平準化

今後の観光施策の方向性② ～観光業を巡る諸課題～

●観光業を巡る諸課題(例)

収益力・生産性の向上

観光地の「稼ぐ力」をつけるために、観光業が抱える生産性の低さやデジタル化の遅れへの対応が必要



宿泊施設の高付加価値化



DXの推進

観光人材の育成・確保

観光需要が回復する中で深刻化する人手不足の解消への対応が必要



人手不足が深刻な宿泊業



外国人労働者の雇用
(イメージ)

国際相互交流の促進

航空ネットワークの拡大や訪日外国人旅行者の来訪促進に向け、双方向の交流拡大（ツーウェイツーリズムの推進）が必要



仙台空港の利用促進



若者の旅行離れ

(出典:観光庁ホームページ)

観光地の魅力向上

ポストコロナの観光需要を多く取り込むためには、「宮城ならでは」のコンテンツ造成が必要



多賀城創建1300年記念事業



地域資源の磨き上げ
(栗駒山×雪)

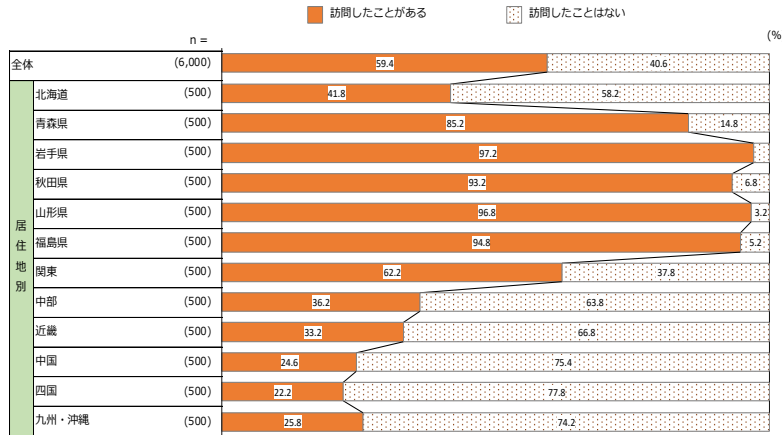
今後の観光施策の方向性③ ～観光客の傾向～

出典：令和4年度宮城県WEBアンケート調査（全国用）

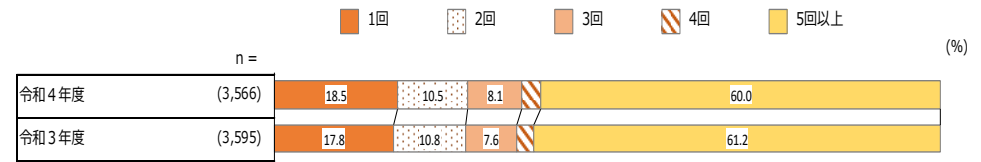
宮城県への訪問経験

■ 宮城県の訪問経験については、約6割が訪問経験者ではあるが、東北地方以外特に中部以西の訪問未経験の割合が高い。一方、訪問回数は、「5回以上」が約6割を占める。

●宮城県への訪問経験



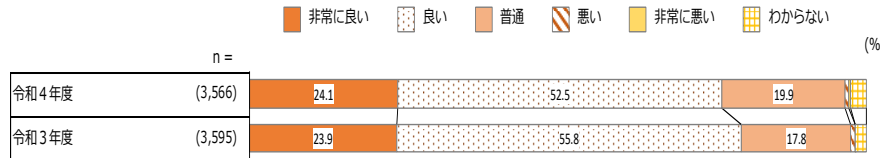
●宮城県への訪問回数



観光地としての満足度

■ 観光地としての満足度は、「非常に良い」、「良い」で約7割を超える。

●宮城県での観光の満足度



観光客の増加に向けて、宮城県への訪問意欲を高め、**新規訪問者や更なるリピーターを獲得**することが重要！

今後の観光施策の方向性④ ～宮城県・東北地方の宿泊観光客数 全国シェアの比較～

- 宮城県及び東北地方は、コロナ禍前から宿泊者数全体に占める外国人観光客の割合が低く（約5%程度）、地方部への誘客が課題（下表赤枠）
- 宮城県における令和4年宿泊者数の全国シェアは全体で約2%程度であり、令和元年からほぼ割合が変わっておらず、外国人観光客の誘客に加え、国内からのリピーター客獲得を含めた誘客拡大も課題（下表青枠）

⇒観光地域づくりを進め、国内外から選ばれる魅力ある観光地としていくことが必要

（単位：万人泊）

		R元		R4		増減	R4/R元
		対全国	対宿泊者数	対全国	対宿泊者数		
宮城県	宿泊者数	923	1.8%	763	2.0%	▲ 160	82.7%
	国内	869	94.1%	757	99.2%	▲ 112	87.1%
	国外	53	5.7%	6	0.8%	▲ 47	11.3%
東北地方	宿泊者数	3,469	6.9%	2,755	7.3%	▲ 714	79.4%
	国内	3,301	95.2%	2,737	99.3%	▲ 564	82.9%
	国外	168	4.8%	17	0.6%	▲ 151	10.1%
全国	宿泊者数	50,098	20.2%	37,717	3.6%	▲ 12,381	75.3%
	国内	39,967	79.8%	36,356	96.4%	▲ 3,611	91.0%
	国外	10,131	20.2%	1,361	3.6%	▲ 8,770	13.4%

出典：観光庁 宿泊旅行統計調査

宮城・東北は、全国平均と比較し、宿泊者数全体に占める外国人観光客の割合が小さい！

➡ 外国人に選ばれる観光地になるには？

コロナ禍を経てもなお、全国に占めるシェアに大きな変動がない！

➡ インバウンドが急激に増えた場合、他の観光地から遅れをとってしまう？

第6期みやぎ観光戦略プラン

2024年（令和7年）からの「宮城県の観光」が目指すべき方向性



意見交換のポイント

1. 現状認識の共有

- ① コロナ禍前と比較した場合の観光客数等の回復状況
- ② 観光客や宿泊者の意識・傾向の変化（県内県外、少人数、ファミリー層、季節変動、平日・休日の比較）
- ③ 人手不足、デジタル化の遅れ、収益力向上
- ④ 宮城の観光の長所・短所 等

2. 宮城の観光が目指すべき姿

- ① 視点：観光客、住民、観光産業、自治体
- ② ターゲット：インバウンド全般、富裕層 等